

# 第5次所沢市総合計画 総括表

施策(章)	第 3 章 『健康・福祉』																																																									
記入日	令和元年12月27日																																																									
記入者職氏名	福祉部次長 並木 和人																																																									
まちづくりの目標	思いやりの心で支え合う 幸せに暮らせるまちをつくります																																																									
分野別計画・指針	第2次所沢市地域福祉計画、所沢市放課後子ども健全育成基本方針、第2次所沢市ひとり親家庭等自立支援計画、所沢市子ども・子育て支援事業計画(ところこすくサポートプラン)、第7期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画、第4次所沢市障害者支援計画、所沢市保健医療計画、所沢市新型コロナウイルス等対策行動計画、第二次所沢市市民医療センター改革プラン																																																									
基本構想	<p align="center">《市の課題・方向性》</p> <p>すべての市民が心身の健康を実感し、明るく幸せな生活を営んでいくためには、一人ひとりが自分を大切に、お互いに認め合い、支え合うことのできる地域社会の実現が必要です。 そのため、子どもたちが健やかに育ち、高齢者が生きがいを感じるまち、すべての市民が将来にわたって健康を意識し、心豊かにいきいきと暮らすことのできるまちをめざし、こうした認め合い支え合う社会への理解をさらに深めていくとともに、地域に根ざした保健・医療・福祉の充実やネットワーク環境の整備を進めます。 さらに、安心して子育てができるまちをめざして、子どもたちや子育て家庭への支援、小児医療の充実に努めます。</p> <p align="center">《まちづくりの目標の実現に向けた主な方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実</li> <li>◆ 自立に向けた支援の充実</li> <li>◆ 生涯を通じた健康づくりの推進</li> <li>◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実</li> <li>◆ 小児医療の充実</li> </ul>																																																									
	<p align="center">平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、顕著な成果があったもの</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取り組み</th> <th>成果</th> <th>《まちづくりの目標の実現に向けた主な方針》</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第2次所沢市地域福祉計画を策定し、基本施策に基づく取組や各種事業を実施した。</td> <td>「第2次地域福祉計画」を策定し、地域福祉のコミュニティづくり、身近な地域に広がるネットワークづくり、安心・安全に地域で生活できる環境づくりを推進した。</td> <td>◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実</td> </tr> <tr> <td>第4次所沢市障害者支援計画を策定した。</td> <td>地域生活支援拠点整備のために必要な事業について関係機関と協議を進めた。</td> <td>◆ 自立に向けた支援の充実</td> </tr> <tr> <td>所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例を制定した。</td> <td>シンポジウムの開催や、出前講座・研修の実施等により、条例の周知や障害への理解啓発を推進した。また、障害者も利用しやすい店舗を増やすために社会的障壁の除去推進事業補助金を創設した。</td> <td>◆ 自立に向けた支援の充実</td> </tr> <tr> <td>第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定した。</td> <td>地域包括ケアシステムの推進に向け、計画的な事業展開について、具体的準備を進めた。</td> <td>◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実</td> </tr> <tr> <td>平成28年度から介護予防体操の「ところん元気百歳体操」を市内で展開した。</td> <td>住民主体の介護予防活動の育成・支援を目的として、理学療法士の派遣や重りの貸出しを通して、「ところん元気百歳体操」の活動を支援した。また、並行してトコフィット(ところん元気百歳体操のサポーター)の養成も行った。(平成30年度末時点、48団体・会員数 1,080人)</td> <td>◆ 生涯を通じた健康づくりの推進</td> </tr> <tr> <td>(仮称)所沢市総合福祉センター(現在の所沢市こどもと福祉の未来館)を開館し、地域福祉の拠点整備を行った。</td> <td>平成23年度の各種調査から、設計、解体工事、建設工事と順調に進め、「所沢市こどもと福祉の未来館」をH29.1月に開館した。また、「こどもと福祉の未来館」に「福祉の相談窓口」を設置し、福祉に関する一元的な相談体制の充実を図った。</td> <td>◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実</td> </tr> <tr> <td>保健と医療の一体的な計画となる「所沢市保健医療計画」を平成28年3月に策定した。</td> <td>これまでそれぞれが取り組んでいた本市の保健・医療施策について、今後推進していく上での基本的な指針が策定された。</td> <td>◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実</td> </tr> <tr> <td>重篤な精神障害者に対し、多職種チームによる支援を行うための「精神障害者アウトリーチ支援事業」を開始した。</td> <td>精神科未受診者への早期支援や退院後の再入院防止が図られた。また、電話による24時間対応等により、当事者や家族の安心に繋がった。</td> <td>◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実</td> </tr> <tr> <td>「健幸長寿のマチ所沢」を目指して、歩くことに主眼を置き、健康無関心層を取込めるようポイント制を導入した健康づくりを進める。</td> <td>平成28年度より「ところん健幸マイレージ事業」を開始し、健康寿命の延伸、医療費の抑制の推進を図った。</td> <td>◆ 生涯を通じた健康づくりの推進</td> </tr> <tr> <td>大腸がん検診及び前立腺がん検診について、特定健康診査との同時受診を可能とし、受診者の利便性の向上に努めた。</td> <td>大腸がん検診については、同時受診により受診率が向上した。また、前立腺がん検診についても利便性を図ったことで、受診がしやすくなり市民の健康づくりが進んだ。</td> <td>◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実</td> </tr> <tr> <td>ジェネリック医薬品希望シールの作成・配布やジェネリック医薬品差額通知の送付を実施し、ジェネリック医薬品の利用を促進した。</td> <td>ジェネリック医薬品の数量シェアが向上し、目標値を達成するとともに、医療費抑制が図れた。</td> <td>◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実</td> </tr> <tr> <td>こどもと福祉の未来館にこども支援センターを開館し、子育て支援事業と発達支援事業の連携事業を開始した。</td> <td>本センターの子育て支援と発達支援が併設する強みを活かして合同事業や連携事業を行い、相談しやすい環境づくりや早期療育につなげた。</td> <td>◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実</td> </tr> <tr> <td>就学前児童に係る保育施設の施設整備(新設、増改築、定員増)を進め、受け入れ枠の確保を進めた。</td> <td>平成23年度～平成30年度までの間に、1,071人分の受け入れ枠を確保した。</td> <td>◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実</td> </tr> <tr> <td>放課後児童クラブを新たに設置し、供給量の確保を進めた。</td> <td>放課後児童クラブへの利用希望の増大を受け、みどり児童館(別館)生活クラブ、中富小児童クラブ、第2所沢児童クラブ(増設)、民設民営児童クラブを新たに設置した。</td> <td>◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実</td> </tr> <tr> <td>児童クラブについて、所沢市立児童クラブ条例を設置した。</td> <td>所沢市立児童クラブについて、保育料などのサービスの基準を統一し、公の施設と位置づけるとともに、30クラブについて指定管理者制度を導入した。(H27～)</td> <td>◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実</td> </tr> <tr> <td>中富小放課後児童対策一体運営事業を導入した。</td> <td>新たな放課後児童対策として、放課後児童クラブと放課後子供教室とを一体的に運営する事業を、中富小学校施設を活用し実施した(H27～)。※指定管理者制度を導入(H30～)</td> <td>◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実</td> </tr> <tr> <td>市民医療センターでは、所沢市域全体での小児初期救急医療体制の充実に努めた。</td> <td>関係医療機関と連携して、所沢市域全体で小児初期救急医療体制の充実と安定的な提供が推進できた。</td> <td>◆ 小児医療の充実</td> </tr> <tr> <td>所沢市子ども・子育て支援事業計画を策定し、進捗管理を行った。</td> <td>平成26年度で終了する所沢市次世代育成支援後期行動計画を引き継いだ所沢市子ども・子育て支援事業計画を平成27年に策定し、所沢市子ども・子育て会議において進捗管理を行った。</td> <td>◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実</td> </tr> </tbody> </table>	取り組み	成果	《まちづくりの目標の実現に向けた主な方針》	第2次所沢市地域福祉計画を策定し、基本施策に基づく取組や各種事業を実施した。	「第2次地域福祉計画」を策定し、地域福祉のコミュニティづくり、身近な地域に広がるネットワークづくり、安心・安全に地域で生活できる環境づくりを推進した。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実	第4次所沢市障害者支援計画を策定した。	地域生活支援拠点整備のために必要な事業について関係機関と協議を進めた。	◆ 自立に向けた支援の充実	所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例を制定した。	シンポジウムの開催や、出前講座・研修の実施等により、条例の周知や障害への理解啓発を推進した。また、障害者も利用しやすい店舗を増やすために社会的障壁の除去推進事業補助金を創設した。	◆ 自立に向けた支援の充実	第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定した。	地域包括ケアシステムの推進に向け、計画的な事業展開について、具体的準備を進めた。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実	平成28年度から介護予防体操の「ところん元気百歳体操」を市内で展開した。	住民主体の介護予防活動の育成・支援を目的として、理学療法士の派遣や重りの貸出しを通して、「ところん元気百歳体操」の活動を支援した。また、並行してトコフィット(ところん元気百歳体操のサポーター)の養成も行った。(平成30年度末時点、48団体・会員数 1,080人)	◆ 生涯を通じた健康づくりの推進	(仮称)所沢市総合福祉センター(現在の所沢市こどもと福祉の未来館)を開館し、地域福祉の拠点整備を行った。	平成23年度の各種調査から、設計、解体工事、建設工事と順調に進め、「所沢市こどもと福祉の未来館」をH29.1月に開館した。また、「こどもと福祉の未来館」に「福祉の相談窓口」を設置し、福祉に関する一元的な相談体制の充実を図った。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実	保健と医療の一体的な計画となる「所沢市保健医療計画」を平成28年3月に策定した。	これまでそれぞれが取り組んでいた本市の保健・医療施策について、今後推進していく上での基本的な指針が策定された。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実	重篤な精神障害者に対し、多職種チームによる支援を行うための「精神障害者アウトリーチ支援事業」を開始した。	精神科未受診者への早期支援や退院後の再入院防止が図られた。また、電話による24時間対応等により、当事者や家族の安心に繋がった。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実	「健幸長寿のマチ所沢」を目指して、歩くことに主眼を置き、健康無関心層を取込めるようポイント制を導入した健康づくりを進める。	平成28年度より「ところん健幸マイレージ事業」を開始し、健康寿命の延伸、医療費の抑制の推進を図った。	◆ 生涯を通じた健康づくりの推進	大腸がん検診及び前立腺がん検診について、特定健康診査との同時受診を可能とし、受診者の利便性の向上に努めた。	大腸がん検診については、同時受診により受診率が向上した。また、前立腺がん検診についても利便性を図ったことで、受診がしやすくなり市民の健康づくりが進んだ。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実	ジェネリック医薬品希望シールの作成・配布やジェネリック医薬品差額通知の送付を実施し、ジェネリック医薬品の利用を促進した。	ジェネリック医薬品の数量シェアが向上し、目標値を達成するとともに、医療費抑制が図れた。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実	こどもと福祉の未来館にこども支援センターを開館し、子育て支援事業と発達支援事業の連携事業を開始した。	本センターの子育て支援と発達支援が併設する強みを活かして合同事業や連携事業を行い、相談しやすい環境づくりや早期療育につなげた。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実	就学前児童に係る保育施設の施設整備(新設、増改築、定員増)を進め、受け入れ枠の確保を進めた。	平成23年度～平成30年度までの間に、1,071人分の受け入れ枠を確保した。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実	放課後児童クラブを新たに設置し、供給量の確保を進めた。	放課後児童クラブへの利用希望の増大を受け、みどり児童館(別館)生活クラブ、中富小児童クラブ、第2所沢児童クラブ(増設)、民設民営児童クラブを新たに設置した。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実	児童クラブについて、所沢市立児童クラブ条例を設置した。	所沢市立児童クラブについて、保育料などのサービスの基準を統一し、公の施設と位置づけるとともに、30クラブについて指定管理者制度を導入した。(H27～)	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実	中富小放課後児童対策一体運営事業を導入した。	新たな放課後児童対策として、放課後児童クラブと放課後子供教室とを一体的に運営する事業を、中富小学校施設を活用し実施した(H27～)。※指定管理者制度を導入(H30～)	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実	市民医療センターでは、所沢市域全体での小児初期救急医療体制の充実に努めた。	関係医療機関と連携して、所沢市域全体で小児初期救急医療体制の充実と安定的な提供が推進できた。	◆ 小児医療の充実	所沢市子ども・子育て支援事業計画を策定し、進捗管理を行った。	平成26年度で終了する所沢市次世代育成支援後期行動計画を引き継いだ所沢市子ども・子育て支援事業計画を平成27年に策定し、所沢市子ども・子育て会議において進捗管理を行った。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実
	取り組み	成果	《まちづくりの目標の実現に向けた主な方針》																																																							
第2次所沢市地域福祉計画を策定し、基本施策に基づく取組や各種事業を実施した。	「第2次地域福祉計画」を策定し、地域福祉のコミュニティづくり、身近な地域に広がるネットワークづくり、安心・安全に地域で生活できる環境づくりを推進した。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実																																																								
第4次所沢市障害者支援計画を策定した。	地域生活支援拠点整備のために必要な事業について関係機関と協議を進めた。	◆ 自立に向けた支援の充実																																																								
所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例を制定した。	シンポジウムの開催や、出前講座・研修の実施等により、条例の周知や障害への理解啓発を推進した。また、障害者も利用しやすい店舗を増やすために社会的障壁の除去推進事業補助金を創設した。	◆ 自立に向けた支援の充実																																																								
第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定した。	地域包括ケアシステムの推進に向け、計画的な事業展開について、具体的準備を進めた。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実																																																								
平成28年度から介護予防体操の「ところん元気百歳体操」を市内で展開した。	住民主体の介護予防活動の育成・支援を目的として、理学療法士の派遣や重りの貸出しを通して、「ところん元気百歳体操」の活動を支援した。また、並行してトコフィット(ところん元気百歳体操のサポーター)の養成も行った。(平成30年度末時点、48団体・会員数 1,080人)	◆ 生涯を通じた健康づくりの推進																																																								
(仮称)所沢市総合福祉センター(現在の所沢市こどもと福祉の未来館)を開館し、地域福祉の拠点整備を行った。	平成23年度の各種調査から、設計、解体工事、建設工事と順調に進め、「所沢市こどもと福祉の未来館」をH29.1月に開館した。また、「こどもと福祉の未来館」に「福祉の相談窓口」を設置し、福祉に関する一元的な相談体制の充実を図った。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実																																																								
保健と医療の一体的な計画となる「所沢市保健医療計画」を平成28年3月に策定した。	これまでそれぞれが取り組んでいた本市の保健・医療施策について、今後推進していく上での基本的な指針が策定された。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実																																																								
重篤な精神障害者に対し、多職種チームによる支援を行うための「精神障害者アウトリーチ支援事業」を開始した。	精神科未受診者への早期支援や退院後の再入院防止が図られた。また、電話による24時間対応等により、当事者や家族の安心に繋がった。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実																																																								
「健幸長寿のマチ所沢」を目指して、歩くことに主眼を置き、健康無関心層を取込めるようポイント制を導入した健康づくりを進める。	平成28年度より「ところん健幸マイレージ事業」を開始し、健康寿命の延伸、医療費の抑制の推進を図った。	◆ 生涯を通じた健康づくりの推進																																																								
大腸がん検診及び前立腺がん検診について、特定健康診査との同時受診を可能とし、受診者の利便性の向上に努めた。	大腸がん検診については、同時受診により受診率が向上した。また、前立腺がん検診についても利便性を図ったことで、受診がしやすくなり市民の健康づくりが進んだ。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実																																																								
ジェネリック医薬品希望シールの作成・配布やジェネリック医薬品差額通知の送付を実施し、ジェネリック医薬品の利用を促進した。	ジェネリック医薬品の数量シェアが向上し、目標値を達成するとともに、医療費抑制が図れた。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実																																																								
こどもと福祉の未来館にこども支援センターを開館し、子育て支援事業と発達支援事業の連携事業を開始した。	本センターの子育て支援と発達支援が併設する強みを活かして合同事業や連携事業を行い、相談しやすい環境づくりや早期療育につなげた。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実																																																								
就学前児童に係る保育施設の施設整備(新設、増改築、定員増)を進め、受け入れ枠の確保を進めた。	平成23年度～平成30年度までの間に、1,071人分の受け入れ枠を確保した。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実																																																								
放課後児童クラブを新たに設置し、供給量の確保を進めた。	放課後児童クラブへの利用希望の増大を受け、みどり児童館(別館)生活クラブ、中富小児童クラブ、第2所沢児童クラブ(増設)、民設民営児童クラブを新たに設置した。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実																																																								
児童クラブについて、所沢市立児童クラブ条例を設置した。	所沢市立児童クラブについて、保育料などのサービスの基準を統一し、公の施設と位置づけるとともに、30クラブについて指定管理者制度を導入した。(H27～)	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実																																																								
中富小放課後児童対策一体運営事業を導入した。	新たな放課後児童対策として、放課後児童クラブと放課後子供教室とを一体的に運営する事業を、中富小学校施設を活用し実施した(H27～)。※指定管理者制度を導入(H30～)	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実																																																								
市民医療センターでは、所沢市域全体での小児初期救急医療体制の充実に努めた。	関係医療機関と連携して、所沢市域全体で小児初期救急医療体制の充実と安定的な提供が推進できた。	◆ 小児医療の充実																																																								
所沢市子ども・子育て支援事業計画を策定し、進捗管理を行った。	平成26年度で終了する所沢市次世代育成支援後期行動計画を引き継いだ所沢市子ども・子育て支援事業計画を平成27年に策定し、所沢市子ども・子育て会議において進捗管理を行った。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実																																																								

平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題		
課題	今後の方針	〈まちづくりの目標の実現に向けた主な方針〉
地域福祉計画の更なる推進	こどもと福祉の未来館の活用を図るとともに、地域福祉のコミュニティづくりや地域の見守り・支え合う体制等の重層的なネットワークの構築、権利擁護制度の推進を図る。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実
「所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例」の周知、障害に対する理解促進	障害への理解啓発を図るとともに、社会的障壁の除去の推進等、ソフト・ハード両面からのバリアフリーを推進していく。	◆ 自立に向けた支援の充実
高齢者が地域でできる限り自立した生活を送ることができるような施策を進める。	地域包括ケアシステムの構築を引き続き行うとともに、介護予防、重度化防止に向けた取り組みや社会参加、地域活動を通じたいきがづくりのための取組を推進していく。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実
「所沢市保健医療計画」に基づく施策の推進、計画の進捗管理	計画に基づき、関係機関・団体等との連携を図りながら、効率的・効果的に施策を推進していく。また、計画推進委員会にて、計画の進捗状況の点検・評価を行い、推進を図っていく。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実
「精神障害者アウトリーチ支援事業」の充実	精神科未受診者への早期支援や退院後の再入院防止等を進め、引き続き支援対象者を拡大する。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実
「健幸長寿のマチ所沢」を目指して、歩くことに主眼を置き、健康無関心層を取込めるようポイント制を導入した健康づくりを進める。	参加者が歩くことを中心とした活動を途切れることなく、長期的に継続できるよう行動変容の観点から検証を重ね、様々な啓発を実施していく。	◆ 生涯を通じた健康づくりの推進
がん検診については、全体的に受診率が低い現状にある。	がん検診の周知や受診しやすい環境づくりを行い、受診者の増加を図る。	◆ 生涯を通じた健康づくりの推進
被保険者の健康増進と医療費の抑制	データヘルス計画に基づく施策を展開し、中でも特定保健指導利用率については、特定保健指導（動機付け支援）の委託化を行うなど、県平均の利用率を上回ることができたが、交付金獲得に向け更なる利用率の向上を図る。	◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実
こども支援センターの子育て支援と発達支援の事業を更に充実させるため、地域の関係機関との連携体制を構築する必要がある。	地域の関係機関や国立専門機関と連携して、こども支援センターの子育て支援、発達支援の事業の充実を図る。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実
小児科医師を確保し、365日すべての時間帯で小児科診療ができる体制を確保する。	市民医療センターでは、小児科医の確保、関係医療機関との調整を図り、小児初期救急診療体制の維持と安定的な提供に努める。	◆ 小児医療の充実
所沢市子ども・子育て支援事業計画の改訂及び進捗管理	第2期計画の策定に向け、子ども・子育てに関するアンケート調査や、所沢市子ども・子育て会議での意見を踏まえながら第2期計画の策定作業を進める。また、引き続き各種事業を着実に展開していくため、進捗管理を行う。	◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実

節	目標指標	単位	指標のめざす方向	前期基本計画 H23～H26			後期基本計画 H27～H30		
				第5次所沢市総合計画策定時(H22)	前期計画終了時(H26) 上段:目標値 下段:実績値	達成率(H26)	実績(H30) 上段:目標値 下段:実績値	達成率(H30)	目標値(H30)
第1節 地域福祉	支えあいのまちづくりに向けて、以前よりも地域のつながりが強くなったと感じている市民の割合	%	↗	9.3	20 11.3	56.5%			
	民生委員・児童委員の充足率	%	↗				100 97.2	97.2%	100
	所沢市子どもと福祉の未来館の開設	-	-				開設 開設	100.0%	開設(H28)
	所沢市子どもと福祉の未来館の利用者満足度	%	↗				100 85.0	85.0%	100
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析								
<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員の充足率はH29年度を0.4ポイント上回ったが、7地区14名の欠員がある。社会情勢の変化や活動の負担感から委員の確保が困難となり、負担軽減に向けた実態把握が必要である。</li> <li>未来館の利用者満足度はH29年度から5ポイントアップした。利用者数や稼働率も向上し、ハード面に加え、受付対応などソフト面でも好評を得ている。一方、駐車場や体育館の混雑への苦情が多くあり、目標達成は困難であるが、引き続き、利用者アンケート等を踏まえた丁寧な対応を行う。</li> </ul>									
第2節 子ども支援	認可保育園の受け入れ人数	人	↗	4,284	4,930 5,047	100%			
	生活クラブ、児童クラブ 入室児童数	人	↗	2,060	2,358 2,405	100%			
	所沢市子ども支援センターの利用者満足度	%	↗				100 97.1	97.1%	100
	地域子育て支援拠点施設の利用者数	人	↗				256,000 294,344	100%	256,000
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析								
<p>子ども支援センターの利用者満足度については、概ね高い評価をいただいたところではあるが、更なる満足度の向上を目指し、支援の充実を図る。</p>									
第3節 高齢者福祉	生きがいがあると感じている高齢者の割合	%	↗	78.6	80.5 79	98.1%			
	老人福祉センター・老人憩の家利用者数	人	↗				346,000 342,187	98.9%	346,000
	一人暮らし高齢者等緊急通報システムの設置数	台	↗	864	1,260 1,426	100%	1,655 1,376	83.1%	1,655
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析								
<ul style="list-style-type: none"> <li>「生きがいがあると感じている高齢者の割合」については、市民意識調査のサンプル数が少なく実態を表しているとは言えないことから、指標の変更を行った。</li> <li>老人福祉センター・老人憩の家利用者数については、7～9月の期間中、酷暑により高齢者が外出を控えたことから施設利用が減った(6,541名減)ため、年間の利用者数が減少したと考えられる。</li> <li>一人暮らし高齢者等緊急通報システムの設置数については、施設入所や長期入院などが多く、機器の撤去が増加したことや新規申請者が少なかったため。</li> </ul>									
第4節 障害者福祉	ところざわ就労支援センター登録者の就職率	%	↗	57.4	63.5 59.1	93.1%			
	ところざわ就労支援センター登録者の就職者数	人	↗				493 567	100%	493
	グループホーム整備数	人分	↗				113 182	100%	113
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析								

目標指標の達成状況

節	目標指標	単位	指標の めざす 方向	前期基本計画 H23～H26			後期基本計画 H27～H30			
				第5次所沢 市総合計画 策定時 (H22)	前期計画終了 時(H26) 上段:目標値 下段:実績値	達成率 (H26)	実績(H30) 上段:目標値 下段:実績値	達成率 (H30)	目標値 (H30)	
第5節 社会保障	国民健康保険特定健康診査の受診率	%	↗	42.7	54 36.2	67.0%	60.0 40.5	67.5%	60.0	
	ジェネリック医薬品の利用率	%	↗				70.0 74.1	100%	70.0	
後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析										
国民健康保険特定健康診査受診率の目標が未達成の理由は、医療機関で生活習慣病等を治療中の被保険者が多いこと及び多くの40・50代の男性は、働き盛りの年代であり健診に対する意識が希薄であることが要因と考えられる。										
目標指標の達成状況	朝の目覚めが快適な市民の割合	20～59歳	%	↗	64.8	76.7 51.8	67.5%			
		60歳以上	%	↗	77.2	87.5 73.6	84.1%			
	市の乳がん検診受診率	%	↗	16.2	35 21	60.0%				
	「所沢市保健医療計画」の策定・推進	-	-				推進 推進	100%	推進	
	大腸がん検診の受診率	%	↗				20.0 7.8	39.0%	20.0	
	他の医療機関等からの紹介入院患者数	人	↗				400 290	72.5%	400	
	こころの健康講座等の参加者数	人	↗				2,600 2,889	100%	2,600	
	後期基本計画に係る未達成指標の理由・分析									
	<p>【他の医療機関等からの紹介入院患者数】 地域連携室を中心に、市民医療センターの入院業務の周知を図り、地域との連携強化を進めてきたことにより、医療機関などからの紹介入院患者数は年々増となっている。しかし、市民医療センターの病床機能が患者の高齢化に対応できていなかったことから、紹介入院患者数が伸び悩んでいた。その解消策の一つとして、平成30年11月から病床機能の一部を地域包括ケア病床へ転換し、受け入れできる患者層を広げている。</p> <p>【大腸がん検診の受診率】 国からの通知により、対象者の算出方法が変更となり、受診率が大幅に低下した。</p>									

第1節	地域福祉	まちづくりの目標	互いの顔が見える、地域でみまもり支え合えるまち			
基本方針	3-1-1 地域福祉ネットワークづくりの推進					
	3-1-2 地域福祉活動の充実					
	3-1-3 地域福祉サービスシステムの充実					
関係所属	福祉総務課					
施策に対する市民ニーズ（「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果）				要望率	全節中順位	分野中順位
				9.9%	22位	6位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
第2次所沢市地域福祉計画を策定し、基本施策に基づく取組や各種事業を実施した。		「第2次地域福祉計画」を策定し、地域福祉のコミュニティづくり、身近な地域に広がるネットワークづくり、安心・安全に地域で生活できる環境づくりを推進した。			3-1-1 地域福祉ネットワークづくりの推進	
(仮称)所沢市総合福祉センター(現在の所沢市こどもと福祉の未来館)を開設し、地域福祉の拠点整備を行った。		平成23年度の各種調査から、設計、解体工事、建設工事と順調に進め、「所沢市こどもと福祉の未来館」をH29.1月に開館した。また、「こどもと福祉の未来館」に「福祉の相談窓口」を設置し、福祉に関する一元的な相談体制の充実を図った。			3-1-3 地域福祉サービスシステムの充実	
地域における自立した生活を支援するために成年後見制度の充実に取り組んだ。		市内で法人後見を行う団体と連携を図るとともに、市として法人後見の仕組みを整えた。また、市民後見人を養成し、社会福祉協議会の法人支援員としての活用を図った。			3-1-2 地域福祉活動の充実	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題						
課題		今後の方針			《基本方針》	
民生委員・児童委員の充足率の向上		民生委員・児童委員制度の周知、活動に対する負担感解消や支援を行い、地域の協力のもと、担い手の確保に努めていく。			3-1-2 地域福祉活動の充実	
地域福祉計画の更なる推進		未来館の活用を図るとともに、地域福祉のコミュニティづくりや地域の見守り・支え合う体制等の重層的なネットワークの構築、権利擁護制度の推進を図る。			3-1-1 地域福祉ネットワークづくりの推進	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	福祉部次長 並木 和人			



第2節	子ども支援	まちづくりの目標	子どもたちの成長を社会で支え合いながら、家庭で安心して生み育てることができるまち	
基本方針	3-2-1 子どもの育成支援の充実			
	3-2-2 子育て家庭の支援の充実			
	3-2-3 地域における子育て支援の充実			
関係所属	こども政策課、こども支援課、こども福祉課(松原学園)、保育幼稚園課、青少年課、学校教育課			
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)				
		要望率	全節中順位	分野中順位
		23.0%	4位	2位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果				
取り組み		成果	《基本方針》	
こども支援センターにおいて子育て支援事業と発達支援事業の連携事業を開始した。		こども支援センターの子育て支援事業の利用をきっかけに発達支援事業へ取り次ぐことにより、地域の中で子どもたちが健やかに成長できるように支援の充実を図った。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
就学前児童に係る保育施設の施設整備(新設、増改築、定員増)を進め、受け入れ枠の確保を進めた。		平成23年度～平成30年度までの間に、1,071人分の受け入れ枠を確保した。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
松原学園運営事業として、障害児地域生活サポート事業を継続し、地域支援の充実を図った。		就学前の子どもをもつ地域の保護者を対象とした相談会や障害児支援に携わる支援者への講演会等を行い、支援の充実を図った。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
障害児通所支援事業について、通所支援事業等連絡会を開催し、ガイドライン等の説明や研修等を行った。		通所支援事業等連絡会において、事業実施に関する研修会等を行い、情報共有や市内事業所の質の向上を図った。	3-2-2 子育て家庭の支援の充実	
放課後児童クラブの新たな設置などにより、供給量の確保を進めた。		児童館指定管理者の更新に合わせ生活クラブの定員拡大及び民設民営児童クラブの設置、小学校施設(中富・泉小学校)の活用などにより放課後児童クラブの定員拡大を図った。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
児童クラブについて、所沢市立児童クラブ条例を制定した。		所沢市立児童クラブについて、保育料などのサービスの基準を統一し、公の施設と位置づけるとともに、30クラブについて指定管理者制度を導入し(H27～)、指定管理者の更新により中富小児童クラブについても指定管理者制度を導入し、31クラブとなった(H30～)。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
中富小放課後児童対策一体運営事業を導入した。		新たな放課後児童対策として、放課後児童クラブと放課後子供教室とを一体的に運営する事業を、中富小学校施設を活用し実施した(H27～)。指定管理者制度を導入した(H30)。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
放課後児童対策に係る「所沢市放課後児童対策実施方針」を策定した(H27)。また「所沢市放課後こども健全育成基本方針」の改訂版(H28)を策定した。		「所沢市放課後児童対策実施方針」に基づき、小学校施設を活用した放課後児童クラブ施設(泉児童クラブ)を整備した。また、「所沢市放課後こども健全育成基本方針」に定める放課後子ども総合プランの推進を図り、児童クラブとほかかごところとの連携を進めた(H28、北秋津小)。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
所沢市子ども・子育て支援事業計画を策定し、進捗管理を行った。		平成26年度で終了する所沢市次世代育成支援後期行動計画を引き継いだ所沢市子ども・子育て支援事業計画を平成27年に策定し、所沢市子ども・子育て会議において進捗管理を行った。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題				
課題		今後の方針	《基本方針》	
こども支援センターの子育て支援と発達支援の事業を更に充実させるため、地域の関係機関との連携体制を構築する必要がある。		地域の関係機関や国立専門機関と連携して、こども支援センターの子育て支援、発達支援の事業の充実を図る。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
松原学園の障害児地域生活サポート事業において支援の充実と関係機関との連携が必要である。		関係機関との連携を緊密にし、ニーズに合った障害児地域生活サポート事業を実施することで地域支援の充実を図る。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
障害児通所支援事業において事業所が増加傾向にあり、事業所の質の向上や連携が求められる。		通所支援事業等連絡会や講座等を開催し、支援力及び質の向上、連携体制の構築を図る。	3-2-2 子育て家庭の支援の充実	
放課後児童健全育成事業について、新たに供給量を確保する必要がある。		「所沢市子ども・子育て支援事業計画」の達成に向け、「所沢市放課後児童対策実施方針」に基づき、児童館生活クラブの定員拡大や民設民営児童クラブの設置、児童クラブの施設改修などにより供給量の確保を図る。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
放課後の児童の居場所づくりを進めるため、放課後子ども総合プランの推進を図る必要がある。		放課後子ども総合プランに基づき、児童クラブとほかかごところの一体型(連携型含む)の実施校の拡充を図る。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
所沢市子ども・子育て支援事業計画の改定及び進捗管理		子ども・子育てに関するアンケート調査の結果や所沢市子ども・子育て会議での意見を踏まえながら、第2期計画を策定する。また、引き続き各種事業を着実に展開していくため、進捗管理を行う。	3-2-1 子どもの育成支援の充実	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	こども未来部次長 町田 真治、こども支援担当参事 市来 広美	

第3節	高齢者福祉	まちづくりの目標	互いに支え合いながら、健やかでいつまでも住み慣れた地域で暮らせるまち			
基本方針	3-3-1 介護予防体制の充実					
	3-3-2 生きがい支援の充実					
	3-3-3 住み慣れた自宅や地域での生活を支える体制づくり					
関係所属	高齢者支援課、介護保険課					
施策に対する市民ニーズ（「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果）				要望率	全節中順位	分野中順位
				23.4%	3位	1位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
高齢者の「居場所づくり」、「社会参加」等を目的に、市の施設以外を拠点とした地域の通いの場の充実に向け取り組んだ。		各地域における「トコロン元気百歳体操」、「お達者倶楽部」、「地域サロン」の活動が継続できるよう支援を行った。トコロン元気百歳体操については団体数を増やすことができた。			3-3-1 介護予防体制の充実	
高齢者大学、高齢者スポーツ大会、演芸大会など様々な高齢者の生きがい対策事業を行った。		様々なレクリエーション事業を行うことにより多様化する高齢者の「生きがい」へのニーズに対応した。			3-3-2 生きがい支援の充実	
高齢者が住み慣れた自宅で暮らし続けられるよう、緊急時の連絡手段を確保する緊急通報システムを貸与した。		急病や突発的な事故などの緊急時における迅速な対応を図ることができた。			3-3-3 住み慣れた自宅や地域での生活を支える体制づくり	
計画的な高齢者福祉施設整備を支援するための事業者の公募・選定を行った。		平成24年度 認知症対応型共同生活介護事業所について公募を行い、2事業者を選定した。 平成27年度 認知症対応型共同生活介護事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所について公募を行い、2事業者を選定した。 平成28年度 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所について公募を行い、2事業者を選定した。 平成30年度 認知症対応型共同生活介護事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所について公募を行い、2事業者を選定した。			3-3-3 住み慣れた自宅や地域での生活を支える体制づくり	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題						
課題		今後の方針			《基本方針》	
高齢者が増加していく中、できる限り自立した生活を送るために、高齢者の通いの場が求められる。		「トコロン元気百歳体操」や「お達者倶楽部」など、地域の中に生きがいや役割を持って生活できるような「通いの場」を継続して支援していく。			3-3-1 介護予防体制の充実	
高齢者の健康増進を図る必要がある。		高齢者が増加していく中で、対象者や財政状況なども考慮しながら健康で生きがい持てる環境を整備していく。			3-3-2 生きがい支援の充実	
地域包括ケアシステム推進のため、高齢者を中心とした地域の支え合い活動の推進が求められる。		高齢者を支える地域の支え合いの体制づくりを推進する。			3-3-3 住み慣れた自宅や地域での生活を支える体制づくり	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	福祉部次長 並木 和人、介護保険担当参事 井上 典			

第4節	障害者福祉	まちづくりの目標	障害のある人が社会参加しながら、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち			
基本方針	3-4-1 社会参加の促進					
	3-4-2 生活支援の充実					
	3-4-3 雇用・就労の促進					
関係所属	障害福祉課、こども福祉課、健康管理課					
施策に対する市民ニーズ（「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果）				要望率	全節中順位	分野中順位
				12.9%	15位	5位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
障害者への理解啓発を促進するため、障害者週間記念事業や発達障害啓発事業等を行った。		障害者施設や団体の活動発表、作品展示、講演会等を実施し、障害に対する理解を深めた。			3-4-1 社会参加の促進	
基幹相談支援センター業務の実施により、相談支援体制の充実を図った。		平成28年5月より基幹相談支援事業を開始し、総合的・専門的な相談支援を実施すると共に、虐待案件への対応や、地域の相談支援事業者への助言や連携強化の取組を実施し、相談支援業務の強化に取り組んだ。			3-4-2 生活支援の充実	
障害者虐待防止法が平成24年10月1日に施行されたことに伴い、関係機関と協議をしながら体制の整備を図った。		障害者虐待防止・対応マニュアルを作成し、虐待に関して適切な対応を行うと共に、再発防止に努めた結果、障害者が安心できる生活に寄与した。			3-4-2 生活支援の充実	
グループホームの運営法人及び入居者に対し助成を行い、障害者の自立支援に努めた。		グループホームの開設にあたり、整備費、運営費の補助を行った。また、グループホーム入居者の家賃補助を行い、地域の中で自立した生活を送る障害者が増えた。			3-4-2 生活支援の充実	
障害者の地域社会での自立を促進するため、就労支援に努めた。		就職に向けた相談や支援を丁寧に行うことにより、就労支援センターの登録者数、就職者数が増加した。			3-4-3 雇用・就労の促進	
重篤な精神障害者に対し、多職種チームによる支援を行うための「精神障害者アウトリーチ支援事業」を開始した。		精神科未受診者への早期支援や退院後の再入院防止が図られた。また、24時間の相談対応等により、当事者や家族の安心に繋がった。			3-4-2 生活支援の充実	
在宅の障害児を介護する保護者の負担軽減を図るため、レスパイトケア事業を推進した。		事業所の相談会等における家族への周知や事業所への補助金交付により利用促進を図った。			3-4-2 生活支援の充実	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題						
課題		今後の方針			《基本方針》	
「所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例」の周知、障害に対する理解促進		市民・事業者の障害への理解啓発の促進、社会的障壁の除去を進め、障害者の生活の充実に取り組む。			3-4-1 社会参加の促進	
「精神障害者アウトリーチ支援事業」の充実		精神科未受診者への早期支援や退院後の再入院防止等を進め、引き続き支援対象者を拡大する。			3-4-2 生活支援の充実	
レスパイトケア事業の市内や県内での利用可能施設は限られるため、利用しやすい環境整備が求められる。		医療機関や障害児支援施設に対するレスパイトケア事業の周知等により、利用者の受け入れが進むよう環境整備の充実に取り組み、保護者の負担軽減を図る。			3-4-2 生活支援の充実	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	福祉部次長 並木 和人、こども未来部次長 町田 真治 健康推進部保健センター長 須田 浩美			



第5節	社会保障	まちづくりの目標	安心して生活でき、わかりやすい社会保障制度が整っているまち			
基本方針	3-5-1 国民健康保険制度の充実					
	3-5-2 高齢者医療制度の充実					
	3-5-3 国民年金制度の推進					
	3-5-4 介護保険制度の充実					
	3-5-5 低所得者世帯への支援					
関係所属	市民課、国民健康保険課、生活福祉課、介護保険課、健康づくり支援課					
施策に対する市民ニーズ(「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果)				要望率	全節中順位	分野中順位
				14.9%	12位	4位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
平成27年度から生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業等を実施した。		様々な問題を抱えて孤立している生活困窮者の生活の安定と自立の助長を図った。			3-5-5 低所得者世帯への支援	
H27年、H28年は各3事業所、H29年は4事業所、H30年は5事業所を対象にケアプラン点検を実施し、保険給付費の適正化を図った。 また、H30年8月より、紙おむつ給付事業において、軽度者は、失禁を誘発する疾病により失禁がある者に限定する改正を行った。		保険給付費の適正化を図った。			3-5-4 介護保険制度の充実	
介護保険料収納対策として、平成24年7月よりコンビニエンスストアでの納付を可能とした。		普通徴収対象者の納付時の利便性向上を図った。			3-5-4 介護保険制度の充実	
要介護認定業務の適正化のため、平成27年度は審査判定を行う合議体数を15から18に増やした。 また、認定者数の増加に対応するため指定市町村事務受託法人に要介護認定調査の委託を開始した。		合議体を増やしたことで要介護認定申請から認定にまで要する日数が8日間減少した。 臨時職員である市の調査員を16名から8名に減員し、事務受託法人への委託件数を増やしたことで人件費等の削減を図った。			3-5-4 介護保険制度の充実	
国民健康保険特別会計の健全化に向け、国民健康保険税率の改正を実施した。		被用者保険の加入適正化等により、急激な国民健康保険被保険者数の減少がみられたが、税率改正の実施及び収納率の向上を図ることにより、被保険者の減少による国保税収減を補うことができた。			3-5-1 国民健康保険制度の充実	
ジェネリック医薬品希望シールの作成・配布やジェネリック医薬品差額通知の送付を実施し、ジェネリック医薬品の利用を促進した。		ジェネリック医薬品の数量シェアが向上し、目標値を達成するとともに、医療費抑制が図れた。			3-5-1 国民健康保険制度の充実	
特定健康診査の受診率向上施策を行った。		西武ライオンズの選手画像を起用したポスターの掲示や商工会議所会報誌に受診勧奨ポスターの折込み、所沢駅構内デジタルサイネージに受診勧奨画面を表示する等、特定健康診査について周知を徹底したことで、受診率の向上につながった。			3-5-1 国民健康保険制度の充実	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題						
課題		今後の方針			《基本方針》	
地域で孤立している生活困窮者を早期発見し必要な支援につなげるために、関係機関との連携が必要となる。		関係機関と連携し、包括的な支援体制による生活困窮者の早期発見、早期支援に取り組む。			3-5-5 低所得者世帯への支援	
高齢化が進む一方で、市の財政状況も厳しくなる状況において、必要な介護サービスを提供するための適正な制度運営が求められている。		適正かつ安定した介護保険制度運営のため、第7期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画に基づき、保険料収納対策、要介護認定及び介護給付の適正化に取り組む。 軽度者の紙おむつ給付については、国の意向で第8期計画より地域支援事業の対象から外れる見込みであることから、特別給付での実施など、第8期計画期間の介護保険料の上昇額も勘案しつつ検討を進める。			3-5-4 介護保険制度の充実	
国民健康保険特別会計の健全化		埼玉県国保広域化運営方針に沿った赤字解消計画を策定し、収納率の向上、医療費の適正化、適正な税率の設定等により平成35年度までに赤字の解消を目指す。			3-5-1 国民健康保険制度の充実	
被保険者の健康増進と医療費の抑制		データヘルス計画に基づく施策を展開し、中でも特定保健指導利用率については、特定保健指導(動機付け支援)の委託化を行うなど、県平均の利用率を上回ることができたが、交付金獲得に向け更なる利用率の向上を図る。			3-5-1 国民健康保険制度の充実	
後期高齢者医療保険料の収納対策		収納率向上、保険料負担の公平性の観点から、滞納者への電話催告、臨戸訪問等を積極的に行うことにより、後期高齢者医療保険料の収納率向上に取り組む。			3-5-1 国民健康保険制度の充実	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	健康推進部次長 前田 広子、生活福祉担当参事 荻野 亨 介護保険担当参事 井上 典			

第6節	保健・医療	まちづくりの目標	心身ともに健康と感じ、必要ときに必要な医療を受けられるまち			
基本方針	3-6-1 地域保健対策の推進					
	3-6-2 生涯を通した健康づくりの推進					
	3-6-3 地域医療・救急医療の充実					
	3-6-4 こころの健康づくりの支援					
関係所属	保健医療課、健康管理課、健康づくり支援課、市民医療センター					
施策に対する市民ニーズ（「平成30年度所沢市市民意識調査」の結果）				要望率	全節中順位	分野中順位
				22.0%	6位	3位
平成23年度～平成30年度の取り組みとその成果						
取り組み		成果			《基本方針》	
保健と医療の一体的な計画となる「所沢市保健医療計画」を平成28年3月に策定した。		これまでそれぞれが取り組んでいた本市の保健・医療施策について、今後推進していく上での基本的な指針が策定された。			3-6-1～4 全ての基本方針	
「所沢市保健医療計画」に基づく施策の推進、計画の進行管理		計画に基づき、関係機関・団体等との連携を図りながら、効率的・効果的に施策を推進していく。また、計画推進委員会にて、計画の進捗状況の点検・評価を行い、推進を図った。			3-6-1～4 全ての基本方針	
「第2次所沢市保健医療計画」策定に向けた市民アンケートを実施した。		保健・医療に関するアンケート調査を実施し、市民の意識等について必要な基礎情報の収集を行い集計した。			3-6-1～4 全ての基本方針	
「健幸長寿のマチ所沢」を目指して、歩くことに主眼を置き、健康無関心層を取込めるようポイント制を導入した健康づくりを進める。		「トコロん健幸マイレージ事業」を継続し、健康寿命の延伸、医療費抑制を図った。また、参加者拡大と事業費用抑制の両立を目指し新たなマイレージ事業実施の検討を開始した。			3-6-2 生涯を通した健康づくりの推進	
地域保健活動の推進のため、各種事業を実施する中で、特に母子の健全育成や乳幼児の虐待未然防止を強化する。		母子の愛着形成を育む事業を行い、健全育成を図った。また、乳幼児健診未受診児を把握し児童福祉部門と連携して虐待未然防止と育児支援につなげる体制を整備した。			3-6-1 地域保健対策の推進	
子どもから高齢者まで、市民1人ひとりが予防的視点を持った健康的な生活習慣を身につけられるよう各地区の保健活動を推進する。		地区診断を行い、個別支援やデータ分析を通じて明確となった健康課題に対し、地区関係団体や関係機関との連携による健康づくりを推進した。			3-6-2 生涯を通した健康づくりの推進	
所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、庁内の連絡会議を開催した。埼玉県新型インフルエンザ等対策訓練の連絡訓練に参加した。		連絡会議では、情報共有及び連携体制や防護服着脱法を徹底できた。また、連絡訓練を実施したことで、県との情報伝達等に関する業務遂行能力の向上が図れた。			3-6-1 地域保健対策の推進	
大腸がん検診及び前立腺がん検診について、特定健康診査との同時受診を可能とし、受診者の利便性の向上に努めた。		大腸がん検診については、同時受診により受診率が向上した。また、前立腺がん検診についても利便性を図ったことで、受診がしやすくなり市民の健康づくりが進んだ。			3-6-2 生涯を通した健康づくりの推進	
所沢市市民医療センター改革プランを策定し、経営改善に取り組んだ。		公立病院として、地域の中で必要とされる役割を安定的・継続的に果たしていくため、小児初期救急医療体制や地域完結型医療体制の整備を進めた。			3-6-3 地域医療・救急医療の充実	
市民医療センターでは、在宅療養患者等について、かかりつけ医からの依頼に対し、円滑に入院できるよう体制の整備を図った。		市民医療センターでは、地域連携室を設置するなど体制を整備し、在宅医療実施医療機関の後方支援の役割を担うことができた。			3-6-3 地域医療・救急医療の充実	
平成23年度～平成30年度の取り組みのうち、第6次所沢市総合計画に引き継がれる課題						
課題		今後の方針			《基本方針》	
「所沢市保健医療計画」に基づく施策の推進、計画の進行管理		第2次計画の策定に向け、保健・医療に関するアンケート調査結果や、所沢市保健医療計画推進委員会での意見を踏まえながら関係所属と連携し第2次計画の策定作業を進める。また、引き続き関係機関・団体等との連携を図りながら、効率的・効果的に施策を推進していくため、同委員会にて、計画の進捗状況の点検・評価を行い、推進を図っていく。			3-6-1～4 全ての基本方針	
「健幸長寿のマチ所沢」を目指して、歩くことに主眼を置き、健康無関心層を取込めるようポイント制を導入した健康づくりを進める。		参加者が歩くことを中心とした活動を途切れることなく、長期的に継続できるよう行動変容の観点から検証を重ね、様々な啓発を実施していく。			3-6-2 生涯を通した健康づくりの推進	
地域保健活動の推進のため、各種事業を実施する中で、特に母子の健全育成や乳幼児の虐待未然防止を強化する。		妊娠・出産・子育て期に至るまで切れ目ない支援を行うため、母子保健事業の充実を図り、支援を必要とする家庭においては、関係機関と情報共有に努め、母子の健全育成に努める。			3-6-1 地域保健対策の推進	
子どもから高齢者まで、市民1人ひとりが予防的視点を持った健康的な生活習慣を身につけられるよう各地区の保健活動を推進する。		各地区の特性を活かし、若い層を含めて、主体的に健康づくりに取り組む住民や仲間と共に健康づくりに取り組む住民を増やすと共に、子どもの頃から健康的な生活習慣を身につけられる家庭や地域づくりを引き続き目指していく。			3-6-1 地域保健対策の推進	
がん検診については、全体的に受診率が低い現状にある。		がん検診の周知や受診しやすい環境づくりを行い、受診者の増加を図る。			3-6-2 生涯を通した健康づくりの推進	
所沢市市民医療センター改革プランに基づく施策の推進、実施状況の点検・評価を行う。		改革プランに基づき、小児初期救急医療体制の維持や経営改善に取り組む、数値目標の達成を目指す。また、所沢市市民医療センター運営委員会にて、計画の進捗状況の点検・評価を行い、推進を図っていく。			3-6-3 地域医療・救急医療の充実	
高齢者の増加により、今後、地域の中で必要とされる入院機能（リハビリテーション、在宅復帰支援）不足に対応する必要がある。		市民医療センターでは、平成30年11月から地域包括ケア病床の運用を始めた。入院機能の充実に努め、地域医療への貢献や在宅医療支援を図っていく。			3-6-3 地域医療・救急医療の充実	
記入日	令和元年12月27日	記入者職氏名	健康推進部次長 前田 広子、健康推進部保健センター長 須田 浩美 市民医療センター事務部総務担当 小峯 英夫			